



人間は煩惱を捨てることができない。これは善知識の歩みに学ぶところでもある。ただ煩惱があるがゆえに人は苦しむが、また煩惱があるがゆえに楽しむこともできる。これが人間にとってとても厄介なことなのだ。

昨今のマスコミを賑わしたいくつかの事件？を改めて思い返してみると、まさに煩惱が表出してしまった事件だったと思われる。ご本人たちは深く反省をしているようにいってはいるのだが、「ばれちゃった」か「しまった」な～、程度にしか本当は考えているような気がしてならない。

内容や理由はさまざまではあろうが、突き詰めれば後ろめたさを感じながらも煩惱を抑えきれなかったというだけのように思える。自分の正直な思いが、社会のルールに適さなかったということで、社会からの制裁を受けるといふ苦しみを背負う結果になってしまったのだろう。

ごく最近では政治家の「失言」というものが問題になったが、「失言」とはいうものの、実によく「本音」を現しているように思えた。「本音」はその後、誤解として取り繕うのにご苦労されていたように見えたが、ただ空しい印象を残すだけのよう思えた。

社会的に地位が高かろうと低かろうと、著名であろうと、なかかろうと、みんな見事に凡夫を生きているのである。

このどうしようもない人間。それは実は他人ごとではない、己自身のことでもありと受け止めなければならないように思える。その自覚こそが「信心」をいただいていく歩みとなってくるからである。反省をするということは、そういうことでもあるのだ。

こんな私でも救われるのでしょうか。そう心から思われるとき時、阿弥陀様のお慈悲が私に届けられてくると思うのです。

寺のあり方を問う

寺を活かすために、今できる事は何？

春季永代経

二月二十日(日) 午前 九時半 午後 一時より



今年初めての学習会開かれる

二月十二日(土)七時より

一月の初旬といつこともあって、少々寒かったがそれでも最近では暖かいほうかと思われた一日であった。

最近、「一緒に学習会に参加していただいている本正寺のご住職に、本日は御法話をしていただいた。

つながって生きていくことの大切さと、うれしさを説いていただいたが、ご自分の実体験を通してのお話に、参加者はうなずきながら聞くことができた。ご住職により親近感をいただく縁ともなつて、また一つつながりの絆が深まったように感じられた。

二月は十一日(土)七時より お文

住職になつて以来、私は今の寺のあり方に不完全燃焼し続けています。改修工事を「縁として、特に痛切に感じ始めていました。寺で何をするための改修工事なの？」と聞かれたらどう答えようかとびくびくしていました。聞法道場「そこがこころよく応える自信もありませんでした。ただ古くなくて傷みも激しいからこゝろ、そう答えるのが精いっぱいのように思っていました。本當の願いとどうか、思いと心は共に門徒として日々の朝夕のお勤めから始まり、聞法し、生きる支えの縁となる場としての寺であると思いたいです。しかし現実はそのようにはまだまだなっていないように思われます。できることから始めようとは思いますが、まだ道のりは遠そうです。皆様の意見をぜひお聞かせください。」

観梅展・書院展・写真展

2月27日(土)～3月6日(日)

つりびな

13日目まで

今年は暖冬であったためか、開花がひと月近くも早く、27日(土)開催日まで花が持つ心配でしたが、途中の明日さで開花の調整もされたのか、何とか8分咲きという状態で、その日を迎えることができました。同時開催では坊守主宰の秀瑤書院展が開かれ、またK.Y(岐阜市)の写真展も開かせていただきました。山田浩二さんの「ネパール・ヒマラヤ紀行ー山岳に生きるー」をテーマに行っていただきました。



メジロを撮影することができました。

上記写真はいずれも2月25日前後のものです。

飛龍梅は少々枝の出が悪い感じがしていますが、まずまずといった感じでした。

秀瑤書院展



テーマ
扇面草花譜



すべて手作りの行燈。3月6日(日)には「灯り」がつけられる予定です。

生け花

ご門徒さんの生け花も添えられて



左寄り

Y.Mさん

S.Mさん

T.Mさん

ご協力ありがとうございました。

写真展

岐阜市 K.Yさん

ネパール・ヒマラヤ紀行



生かすのついでに
が問へ返されたる
作品展とした。
300点ほどの作
品の中から8点だけ
を選びました。



ご門徒の皆様には、春の永代経にも
ご覧になっていただけます。